資料１

夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案）のパブリックコメントの実施結果について

１ 概要

夢見ヶ崎動物公園は開園から 70 年以上が経過し、公園施設の老朽化に加え周辺環境の変化や社会変容による市民ニーズの変化、気候変動への対応等が必要となっていることから、令和６（2024）年度に「夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子」を決定しました。これを踏襲し、再整備の基本的な考え方及び運営手法等をとりまとめた「夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案）」を公開し、地域の皆様や公園利用者などから広く御意見を募集しました。

その結果、７７通（意見総数２４２件）の御意見をいただきましたので、御意見の内容とそれに対する市の考え方を次のとおり公表いたします。

２ 意見募集の概要

題名	「夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案）」に関する意見募集について
意見の募集期間	令和８年１月 30 日（金）から令和８年３月２日（月）
意見の提出方法	意見提出フォーム、ファクス、郵送、持参
意見の周知方法	・川崎市ホームページへの掲載 ・市政だより（令和８年２月１日号）への掲載 ・かわさき情報プラザ（川崎市役所本庁舎復元棟２階）での閲覧 ・各区役所市政資料コーナーでの閲覧 ・建設緑政局緑政部みどり・多摩川事業推進課（川崎市役所本庁舎 17 階）での閲覧 ・市民館・図書館での閲覧 ・幸区役所道路公園センターでの閲覧 ・夢見ヶ崎動物公園パークセンターでの閲覧 ・日吉合同庁舎（1 階・3 階）での閲覧
結果の公表方法	・川崎市ホームページへの掲載 ・かわさき情報プラザ（川崎市役所本庁舎復元棟２階）での閲覧 ・各区役所市政資料コーナーでの閲覧 ・建設緑政局緑政部みどり・多摩川事業推進課（川崎市役所本庁舎 17 階）での閲覧 ・市民館・図書館での閲覧 ・幸区役所道路公園センターでの閲覧 ・夢見ヶ崎動物公園パークセンターでの閲覧 ・日吉合同庁舎（1 階・3 階）での閲覧

３ 結果の概要

意見提出数（意見件数）	７７通　（２４２件）
意見提出フォーム	７３通　（２２６件）
FAX	３通　（　１１件）
郵送	１通　（　　５件）

４ 意見の概要と対応

（１） 意見の対応区分

【対応区分】

Ａ：意見を踏まえ、案を加筆・修正するもの

Ｂ：案の趣旨に沿った意見であり、意見を踏まえ、取組を推進するもの

Ｃ：意見を踏まえ、今後取組を進める中で参考とするもの

Ｄ：案に対する質問・要望の意見であり、案の内容を説明・確認するもの

Ｅ：その他（今回の意見募集の趣旨・範囲と異なる意見等）

【意見の件数と対応区分】

項目	A	B	C	D	E	計
1　考え方全般に関すること	0	4	5	1	0	10
2　”いのちを感じる”プログラムに関すること	0	6	12	9	0	27
3　施設整備に関すること	3	39	38	12	1	93
4　運営・管理に関すること	0	1	14	0	9	24
5　財源確保・多様な主体との連携に関すること	2	34	28	14	0	78
6　コレクションプランに関すること	0	0	10	0	0	10
合計	5	84	107	36	10	242

（２）主な意見と本市の対応

①主な意見

「夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案）」に対して、考え方全般に関する意見のほか、”いのちを感じる”プログラム、施設整備、運営・管理、財源確保・多様な主体との連携に関することなど、広く御意見が寄せられました。

②本市の対応

寄せられた意見が、案を加筆・修正するものや、案に沿ったもの、今後の取組を進めていく中で参考とさせていただくものであったことから、所要の整備を行った上で、「夢見ヶ崎動物公園再整備計画」を策定いたします。

5　意見の概要と意見に対する本市の考え方

（１）考え方全般に関すること（１０件）

No	意見の要旨	市の考え方	区分
1	再整備には大変期待している。たくさんの時間、お金、知恵労力を費やすので最高の夢見ヶ崎動物公園に生まれ変わってほしい。そして「都市が自然と共生する姿」の成功例として全国に示していただきたい。	夢見ヶ崎動物公園が、"都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場"として、市民と利用者が「いのちを感じる」場となるよう、多様な主体と連携・協力しながら、着実な事業推進を目指してまいります。	B
2	再整備計画が進むことにより、素敵になるのだろうと思う。もちろん今の距離感や空気感も大好きだが、再整備が進むことにより、動物たちの生きている匂いや動きは、きっと近くで感じられると信じている。		B
3	３つのエリアごとに説明があり、これまでの経緯と現状、これからのことが書かれてあり、イメージしやすかった。「いのちを感じる」と同時に、大人も子供も、自然や動物との接し方、マナーを学べる場所であってほしい。		B
4	無料の施設の為、公園としても沢山の方が利用できる施設であるといいと考える。		B

5	再整備計画を読んで、これまでの夢見ヶ崎動物公園のイメージが大きく広がる、とても魅力的な内容だと感じた。特に、「夢見ヶ崎動物公園は日本でも珍しい文化遺産である」という視点、その価値の向上に向けて「市民の、市民による、市民のための動物公園」を目指すという理念に強く共感した。これからの川崎には、市民が行政と一緒になって加瀬山の管理や運営に関わり、自分たちの憩いの場を守り育てていく姿勢が必要である。その実現にはハード面の整備が進むことはもちろん大切だが、川崎が京浜工業地帯から未来型の都市へと変わっていくための「ソフト」の仕掛けづくりが欠かせないと感じる。以下がそのソフトの一例である。 ・加瀬山で「歴史を学び、未来を考える」体験をつくる。 ・なぜ加瀬山に動物公園があるのか、その背景を知るだけでも市民にとって大きな価値がある。 ・工業化以前の加瀬山の姿を知る機会をつくる。 ・山が削られながらも残された理由や、当時の人々の思いを伝える。 ・人工的にできた断崖絶壁から何を感じるか、考えるきっかけをつくる。 ・加瀬山を動物公園にした人々の思いを知る。 ・今の私たちが享受している環境は、過去の人々の思いの積み重ねであることを伝える。	夢見ヶ崎動物公園が、"都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場"として、市民と利用者が「いのちを感じる」場となるよう、再整備にあたりましては、いただいた御意見も参考にしながら検討してまいります。	C
6	夢見ヶ崎動物公園と加瀬山には、歴史・文化・自然・市民参加という多くの可能性が詰まっていると感じている。日吉いこいの家や南加瀬こども文化センターと連携した活動をデザインすることで、世代を超えた交流が生まれる。行政と市民が同じ方向を向きながら、この場所を 「未来の川崎を象徴する場」として育てていけるよう、ぜひ柔軟で開かれた議論と取り組みを進めてきたい。		C
7	お金をかけすぎず、今までの雰囲気を維持した形での政策を希望する。		C
8	夢見ヶ崎動物公園の魅力の TOP に「無料であること」という項目が来ており、裏を返せば、有料であれば行く魅力があまりない、と考えると今回の再整備で、いかにこの意識を変えていけるかが大事である。		C

9	今回の件で長年の協力した地元商店会、町内会有志等の地元に対して話し合いや説明会が無かった。広報紙や市民パブリックコメントで片付けてしまうやり方では、地元住民の理解、協力を得るのは難しいのではないか。	本計画や計画骨子の策定にあたっては、オープンハウス型説明会の実施や夢見ヶ崎動物公園で活動されているボランティア団体等地域の皆様へ説明を行い、伺った御意見を踏まえて取りまとめたものでございます。また、パブリックコメントの実施にあたっては、地元町内会等への説明を行った上で、御意見をいただいたところでございますが、御指摘いただきました点を踏まえ、今後の計画の進捗に合わせて、再整備による効果や影響等を、町内会や地域の活動団体等を通じて、地域住民や関係者、利用者の皆様へより丁寧に説明を行いながら取組を進めてまいります。	C
10	今回の再整備計画は、少し離れた人たちに来園をしてもらうための魅力向上のための計画ではなく、今すでに来ている周辺住民の利用者のための計画との理解でよろしいか。	本計画は、周辺住民の方々による日常的な利用を大切にしながら、老朽化や社会環境の変化に対応し、市内外を含む多様な利用者にとって「いのちを感じる」場となることを目指し、再整備の取組を進めてまいります。	D

（2）”いのちを感じる”プログラムに関すること（２７件）

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
1	パークセンター内での飼育員によるお話し会やミニ映画会などの企画があるとよい。	基本方針である①緑と人が出会う②人と人が出会う ③ 生きものと人が出会うに基づき、いただいた御意見も参考に五感を使った「いのちを感じる」プログラムの拡充に努めてまいります。	C
2	においは動物の生態や特徴を学ぶ一つの重要な要素だと思うため、「いのちを感じるプログラム」の動物のにおいを嗅ぐ体験プログラムや情報発信を実施してほしい。また、プログラムを通じて動物を尊重する意識を醸成していただきたい。		C
3	2 歳の子供は動物を見るだけで楽しいようですが、4 歳は物足りないようなので、『「いのちを感じる」プログラム』は有難い。有料でも動物公園で体験できることが増えるなら、ぜひ参加したい。	基本方針である①緑と人が出会う②人と人が出会う ③ 生きものと人が出会うに基づき、五感を使った「いのちを感じる」プログラムの拡充に努めてまいります。	B
4	動物に関する感染症の知識を得られる機会を提供いただきたい。動物に触れることは、触られることを嫌う動物にとってはストレスになる上、動物人間双方にとって感染症リスクがあるということを周知してほしい。動物に触れるふれあいは動物のストレスや感染症のリスク、更に、安易なペット飼育欲求を高めることに繋がりかねないため、直接触れる体験は極力減らし、実施する際は、動物について十分に学び触ることで学びを深められる場合に限るなど、必要性を十分に検討いただきたい。また、視覚障害者など障害を持つ人が介助者とともに来ているのを時々見る。聴覚障害者向け。のツアーを実施したりクワイエットアワーを設けたりする動物園等の取組を参考に、障害のある人も楽しめるような環境整備を進めていただきたい	基本方針である①緑と人が出会う②人と人が出会う ③ 生きものと人が出会うに基づき、五感を使った「いのちを感じる」プログラムの拡充に努めてまいります。また、ふれあいについては、アニマルウェルフェアへの配慮が必要なことなどから、単に動物に触れるのではなく、エサの準備の手伝いや生きものの生態を観察・学ぶなど、脳と心が喜ぶ新たな「ふれあい」を提供できるよう取り組んでまいります。また、クワイエットアワーなど種々のイベントにつきましては、いただいた御意見を参考にして今後検討してまいります。	C

5	動物案内や給餌体験等のイベントを増やし、動物お散歩タイムとして園内を練り歩き、触れ合えるような時間を作り、情報発信してほしい。	基本方針である①「緑と人が出会う」、②「人と人が出会う」、③「生きものと人が出会う」に基づき、五感を通じて「いのちを感じる」プログラムの拡充に努めてまいります。また、ふれあいについては、アニマルウェルフェアへの配慮が必要であることから、単に動物に触れるのではなく、エサの準備の手伝いや生きものの生態を観察・学ぶなど、脳と心が喜ぶ新たな「ふれあい」を提供できるよう取り組んでまいります。	D
6	動物と触れ合うことは、他者への思いやり（情操教育）にも繋がるため、実施してほしい。 人的投資と言っても良いでしょう。		D
7	子どもの情操教育のためモルモットやヤギなどの動物とふれあいできるコーナーがほしい。 土日限定や予約制、有料化、ボランティア募集等、できる範囲で御検討頂ければと思います		D
8	子どもたちが動物に親しみを持てるよう、ウサギやモルモットなど小動物とのふれあいコーナーがある、自然や動物と身近に触れ合える魅力的な公園となることを期待する。		D
9	豚・牛・馬・鶏・羊・うさぎなど生活に身近な家畜を導入し、都市部の子どもたちが家畜と日常的に触れ合える「都市型牧場」となってほしい。		D
10	家畜を導入し、飲食エリアで生じる野菜くずの活用など、施設内の循環の中で餌を確保することで、餌やりを、料金不要で行える仕組みの導入を提案する。		D
11	気軽に身近に動物と触れ合える施設となってほしい。		D
12	動物の餌を購入し、与えられるようにしてほしい。		D
13	モルモット、ヤギのふれあい、ロバの餌やりや双眼鏡を野鳥保護区の説明と併せたバードウォッチング体験などを実施してほしい。		D
14	里山エリアに「体験型の農園（里山の畑）」を整備し、地域の子どもたちが野菜を育てたり、「収穫体験」ができるようになるとよい。	里山エリアにおける体験につきましては、いただいた御意見を参考に、里山を体感できるプログラムについて検討してまいります。	C

15	アニマルウェルフェアを重視し、動物のふれあいコーナーは設置しないでほしい。	基本方針である①緑と人が出会う②人と人が出会う ③ 生きものと人が出会うに基づき、五感を使った「いのちを感じる」プログラムの拡充に努めてまいります。また、ふれあいについては、アニマルウェルフェアへの配慮が必要なことなどから、動物を触るのではなく、脳と心が喜ぶ「ふれあい」を提供できるよう検討してまいります。	B
16	【いのちを感じる】、これはとても素敵な言葉だと思う。私は写真撮影をするので、季節ごとの【いのち】を感じる機会が増えれば助かる。素敵な場所で素敵な思い出を多く残し、帰ってからも感じたい。		B
17	ふれあいはせずにほかの方法で動物のことを知る機会があればよい。触れ合うだけでは人間の楽しい可愛いだけで、残るのは動物たちの恐怖心や感染症の心配等で終わってしまう。		B
18	私は、他の公園で里山をイメージしながら子どもたちに農体験や五感で自然とふれあうプログラムを実践している。再整備計画に私たちの実践と同じ内容の「いのちを感じる」プログラムが入っていたのを、うれしく思う。ただ、収入源の確保に終始したものにならず、「かわさきを好きになる」ツールに育ててほしい。		B
19	負傷した野生動物を見つけた際の基本的な考え方や相談先を分かりやすく園内で紹介してほしい。	掲示などを通じて分かりやすく伝えることで、環境保全と地域社会との共生や環境問題への関心を育めるよう、周知啓発に努めてまいります。	C
20	園内で見られる野鳥の紹介や季節ごとの観察情報を分かりやすく発信していただければ、自然をより身近に感じられると思う。	園内の生きものや足元の自然を題材に、掲示などを通じて分かりやすく伝えることで、環境保全と地域社会との共生や環境問題への関心を育めるよう、周知啓発に努めてまいります。	C
21	気候変動や環境問題といった大きなテーマも、まずは園内の大きな木のウロに巣を作っている外来種のワカケホンセイインコなど足元の自然から感じることにより、より身近な問題として受け止めるきっかけになるのではないか。		C

22	夢見ヶ崎動物公園の使用目的も音楽イベントなどはやめて、川崎の市内の動植物を含めた自然環境の情報発信や、生き物とのふれあいや学びの場に絞ったほうがよいと思う。川崎の生物多様性についての情報発信は、生田緑地内にあるかわさき宙と緑の科学館などと連携するとより良い。	イベント実施内容につきましては、いただいた御意見を参考にしつつ、環境保全と地域社会との共生について、周知啓発に努めてまいります。	C
23	緑が多いので、動物たちが食べられそうな植物などがあるのであれば、イベントでそこから植物を集めて動物にあげるイベントができても面白いかもしれない。		C
24	大地の中のバクテリアなどから虫や植物が、動物公園に飼育されている生き物の命につながっているという視点。ひいては我々人間のいのちもそれら多くの命に支えられているということを理解できるような学習の場として、展示動物だけに着目するのではなく、加瀬山全体の自然環境を観察し、土の中から草、樹木、虫、爬虫類など展示されることのない、いのちに関しても目をむけて学べるようなプログラムがほしい。	環境保全と地域社会との共生につきましては、いただいた御意見を参考に、周知啓発に努めてまいります。	C
25	環境学習について様々なワークショップが常に発信していけるような、職員の方々へは負担がかからないような仕組みや体制を整える必要がある。鳥類のための巣箱の設置、タヌキなどの野生鳥獣のための果樹の植樹を生涯学習センターなどと提携して実施すると良い。また、できれば設置後の観察も市民参加で実施したら良い。		C
26	「いのちを感じる」プログラムを充実させることに加えて、サポーターや地域のボランティアの力を借りて、日常的に動物の解説や、動物が登場する紙芝居や読み聞かせなどをできるとよい。	多様な主体とそれぞれの資源・得意分野を夢見ヶ崎動物公園で発揮していただき、良い効果が地域に波及していくことを目指して再整備を進めてまいります。	B
27	動物園の動物たちを見て「可愛い」「かっこいい」「飼いたい」という段階で終わってしまっており、動物園の 4 つの役割を理解していない人が多い印象を受けるので、夢見ヶ崎動物公園からも改めて発信するべきである。	いただいた御意見を参考に、動物園の 4 つの役割（「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」）を含め環境保全と地域社会との共生について、周知啓発に努めてまいります。	C

（３） 施設整備に関すること（９３件）

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
1	改修工事中の動物への騒音対策は、どのように考えているか。（同趣旨２件）	工事に伴う騒音や移動が飼育動物に極力影響を及ぼさない様な整備方法や飼育管理を大学などの学術機関と連携して実施してまいります。	A
2	10 年という長い工事期間中も、遊び場、夏場の木陰やベンチなどの休憩スペースは減らさないでいただきたい。また、仮囲いに動物の解説や子どもたちの絵を掲示するなど、工事中も楽しめるような温かい工夫があるとよい。	工事期間中の園内状況につきましては、来園者のニーズ等を踏まえた環境確保に努めてまいります。また、工事中の来園者サービス低下防止に向けた取組については、御提案を含め今後検討してまいります。	A
3	さまざまな子どもたちが一緒に遊べるインクルーシブ遊具や特徴のある遊具を選定してほしい。（同趣旨４件）	遊具につきましては、安全性や利用のしやすさの観点から、適切な種類・配置を検討するなど、来園者の方々が安全に、安心して利用できる公園環境を整備してまいります。	B
4	野生動物救護に関して、野生復帰に必要なリハビリ用のバードゲージの設置や治療に必要な設備の充実等により力を入れてほしい（同趣旨意見７件）	夢見ヶ崎動物公園が野生傷病鳥獣の保護と野生復帰に向けた活動を続けることにより、環境保全と地域社会との共生について人々に伝えることができると考えます。野生傷病鳥獣の受け入れや野生動物リハビリテーターの活動が充実できるよう、設備の充実やリハビリ環境の整備を進めてまいります。	B
5	加瀬山の斜面を使った動物の展示を行ってほしい。（同趣旨意見２件）	加瀬山の斜面につきましては、その大部分が急傾斜地崩壊危険区域に指定されておりますので斜面を活用した動物展示は難しいと考えております。動物展示につきましては、アニマルウェルフェアに配慮した展示空間の整備を行ってまいります。	D
6	再整備において、遊具の更新等は不要だと思っています。（同趣旨意見２件）	遊具につきましては、安全性や利用のしやすさの観点から、適切な種類・配置を検討するなど、来園者の方々が安全に、安心して利用できる公園環境を整備してまいります。	D
7	景色を眺めてゆっくり休憩できるデッキやテラスのような場所を再建してほしい。（同趣旨意見２件）	展望デッキ、日除けなど休憩施設を更新し、市街地への眺望、富士山への見晴らしや既存のサクラを活かしたのびのびとした広場空間として整備を進めてまいります。	C

8	近年の猛烈な暑さから、屋外施設へ向かうことが難しい日が増えています。ベンチや休憩室、トイレを充実してほしい。（同趣旨意見１１件）	来園者や職員の安全確保を考慮し、暑熱環境に対応した休憩所などの施設整備を進めてまいります。	B
9	ペンギン舎に関しては、全面的に修繕が必要です。趾瘤症対策として土をいれたり、機械に耐えられる塗装とする、鳥インフル対策にネットをはる、餌の種類を豊富にしてあげる等を実施してほしい。	いただいた御意見を参考に、「動物の愛護及び管理に関する法律」に基づく施設基準や、公益社団法人日本動物園水族館協会の「適正施設ガイドライン」に基づく飼育スペースや環境条件を確認等しながら、アニマルウェルフェアや感染症対策を担保した獣舎設計等を検討してまいります。	C
10	鹿舎などは屋根はありますが少し小さく感じる。		C
11	マーコールの展示場の広さが飼育頭数に対して狭いと感じる。		C
12	動物園内の動物の環境整備をどの方向にするのかが読み取りにくかった。動物たちが本来のあるべき姿として見せる必要がある。		C
13	動物舎の再整備については動物福祉（アニマルウェルフェア）を第一に考え、動物が本来持っている習性や行動特性を無理なく発揮できる環境整備を行ってほしい。（同趣旨意見７件）	「動物の愛護及び管理に関する法律」に基づく施設基準や、公益社団法人日本動物園水族館協会の「適正施設ガイドライン」に基づく飼育スペースや環境条件を確認等しながら、アニマルウェルフェアを担保した獣舎設計等を実施してまいります。	B
14	敵ではない動物たちを一緒にして混合飼育をし、自然の植栽や水飲み場を用意し、その中に金網のトンネルを作って、人間はそこから動物を見学する方式がよい。鳥インフル対策としては、建物自体を透明な壁面と屋根で覆えるようにしておければよい。	いただいた御意見を参考に、アニマルウェルフェアを担保した獣舎設計等を検討してまいります。	C
15	生息地の近い爬虫類と猿類、爬虫類と地上性鳥類などとの混合展示を、アニマルウェルフェアを意識した上で実施する。		C
16	動物を触ったり、餌をあげるなどの動物へのいたずらを防ぐために人間と動物の距離を十分取る設計であってほしい。		C
17	獣舎は、人が手を出せない作りにしてほしい。また、動物が安心できるように姿を隠す作りがあるとよいと考える。		C
18	獣舎の改修にあたり、できる限り生息域の環境に近くしたり獣舎内において動物意思で隠れられる場を設けたりするなど、JAZA のガイドラインを超える環境整備や動物の健康管理のためのカメラを導入、鳥インフルエンザ対策など実施していただきたい。また、暑熱対策についての対応は 26 年度にとっていただきたい。		C

19	柵越し・檻越しの展示は、動物園としてはやや古い印象を受けるので、可能な限り、柵が視界に入らないパノラマ展示を取り入れてほしい。また、特定の動物専用の施設ではなく、「生態」や「生息環境」を再現する展示を基本とすることで、将来的に展示動物が変わった場合でも大きな改修が不要となり、長期的なコスト削減と動物福祉の両立につながると考える。		C
20	飼育動物の傍に飼育環境と同じ空間を再現した檻や囲いの施設があると動物園動物の境遇の実体験ができ、学べると思う。	いただいた御意見を参考に、いのちを感じるをコンセプトとして"都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場"としての動物公園となるよう再整備を検討してまいります。	C
21	できるだけ本来の棲息環境に近い環境を作って展示し、それぞれの動物の能力などが分かるような展示が望ましい。詳しい動物の生態に関する解説や、個体に関する解説により動物の個性を知ることで、動物への理解や愛情を育むことにつながる。	いただいた御意見を参考に、アニマルウェルフェアを担保した獣舎設計等を実施するとともに、動物や生息環境の情報発信を充実してまいります。	C
22	フサオマキザル舎前のベンチで飲食する人が何人もいて、サルたちが気にしていたり、人間がサルに手を伸ばして注意を引こうとしたり、食べているものを動物に差し出したりしており、お互いにとって良くないのではと日頃から感じている。飲食できるスペースを限った方が良いのではないか。	いただいた御意見を参考に、アニマルウェルフェアを担保した獣舎設計等を実施するとともに、夢見ヶ崎動物公園での注意事項の啓発等を検討してまいります。	D
23	動物達も人もより自然を感じられるような作りが良い。建物も可愛くメルヘンチックな御伽の国のような、スタッフもそれに似合うコスチューム、アトラクションはなくても、不思議な国に迷い込んだような場所だったら楽しいのではないか。	①緑と人が出会う②人と人が出会う ③ 生きものと人が出会うの３つの基本方針に基づき、いのちを感じるをコンセプトとして"都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場"としての動物公園となるよう再整備を進めてまいります。	D
24	職員さんや動物たちにより良い環境をお願いしたい。	アニマルウェルフェアや環境エンリッチメントを考慮した施設や、職員・動物の安全を考慮した施設となるよう再整備を進めてまいります。	B
25	野生動物のロードキル・誤認保護・餌付けなどの問題を知ってもらうために、タヌキ・アナグマなどの川崎市内で見られる野生動物とヤギ・ロバなどの家畜種を比較展示し、野生動物との距離感について学ぶ場を作ってほしい。	いただいた御意見を今後の施設整備・改善に向けた参考にしてまいります。	C
26	パークセンターにウォーターサーバーや授乳室などが完備され、大変ありがたいが、電子レンジや子ども用のハイチェアがあるとご飯を食べる時に大変助かるので、検討してほしい。		C

27	市内で出る規格外や訳あり野菜等の廃棄野菜の有効活用できるようにしてほしい。		C
28	バックヤード・病院・保護施設について「職員の働きやすさや安全を考慮した整備」は、動物園の運営にとって重要な要素であるため、改善を図っていただきたい。		C
29	児童公園については、特徴ある公園づくりを進めていただきたい。また、駐車場は近隣駐車場等の連携により、来園者の向上につながる。 パークセンター南側の仮設病院・休憩小屋は、近年の地球温暖化実に上昇しており、人と動物のいのちを守る為には早急の課題として対応必要である。 慰霊塔付近は、慰霊塔の由来による案内設置を希望する。 植栽の考え方について、 散策路（南側）は明るさの確保、緑陰効果、安心・安全の確保、見通しの確保、休憩ベンチ、景観により富士山の眺望を担保してほしい。		C
30	坂道の多い地形に配慮した、安全で歩きやすい動線を整備してほしい。	園路につきまして、来園者の安全確保やバリアフリーを考慮した動線などを検討してまいります。	B
31	パークセンターが綺麗になってとても良かった。	今後も、パークセンターを休憩などの利用だけでなく、夢見の取組の発信や地域との関わりづくりなど柔軟に活用してまいります。	B
32	静かに自然を楽しめる空間を確保してほしい。	再整備において、里山エリアに日常利用として散歩・散策の際の休憩など、地域の憩いの場として静的な空間づくりを進めてまいります。	B
33	園内に地域の在来植物を活かしたビオトープが整備すれば、昆虫や野鳥が自然に集まり、「この地域のいのち」を身近に感じられる空間が生まれるのではないか。 また、園内の樹木や草花に名前や簡単な説明が添えられているだけでも、「なんとなくある緑」から「名前のあるいのち」へと見方が変わると思う。	里山樹林エリアにつきましては、いただいた御意見を参考にしながら日常的な散歩・散策の際に自然の芽吹きやいのちの循環を感じ、生きものと出会える安全管理や地域の憩いの空間づくりをイメージした整備を検討してまいります。	C

34	この公園には多くの野鳥がいるため、池など水場があればさらに多くの野鳥が集まると思う。		C
35	水はけの悪い場所は田んぼやビオトープにするのがよい。いのちのつながりを見ることができるし、減少傾向にあるトンボやカエルの生息場所の提供になると考える。また、畑を作って、飼育動物の餌を育てると良い。動物を観察する際に同時に目の前に植えてある畑の作物をみて、こういうものを食べているのかと認識できる。これらの作物も小中学校の環境学習の一環として育ててもらったり、収穫できたときに生徒たちに餌やりをしてもらったりなどもできる。		C
36	芝生広場について、子供の遊ぶ場は何かと芝生を敷きがちだが、実際は踏みつけに弱く、すぐはげて養生が必要になったり、管理が大変なため、園芸種であればクローバー系が最も安定して成立すると考える。水はけを全面的によくすれば、ダイカンドラも花が美しく素敵である。本来であればいわゆる「雑草」と呼ばれる草が多く繁茂すると思われるが、「あえて昆虫のために草原を維持しています」、と注意書きをするのが本来の姿と考える。昆虫を保護、観察する場所として貴重な場所になる。生き物が草原にどのくらい棲息しているか、定点観測は学校などと提携して行うと良い。	芝生広場の草花の種類につきましては、いただいた御意見を参考に、掲示なども含めた維持管理方法などを勘案しつつ、今後検討してまいります。	C
37	各地で危険性から樹木の伐採が進んでいるが、一度、伐採してしまったら、その樹木の作っていた環境は数十年戻ってこない。そして様々な樹種が生育しているから、昆虫や鳥、動物の生育が可能になる。	植栽につきましては、いただいた御意見を参考に、既存の高木の緑陰を活かしながら、安全性を考慮した見通しの確保、景観の充実による魅力向上などのため、高木の剪定などを行ってまいります。ただし、根上がりが著しく、利用にあたって危険や支障が伴う樹木や、再整備に向けて施設などの支障となる樹木は、公園利用にあたって適切な位置に更新してまいります。	C
38	場当たり的な植栽の管理は止めてほしい。		C
39	樹木の高木化・老朽化等への対策をしてほしい。		C
40	加瀬山の樹木･植物をできる限り残し、今までの加瀬山の姿を変えずに、人工物で覆われた公園にならないようにしてほしい。		C

41	トイレがきれいで安心して使えることは、とても大切なことだと感じている。	トイレにつきましては、先行整備とし多機能トイレなどを備えたパークセンターの新設や慰霊塔前広場のトイレの更新を行いました。今後も再整備において、西側トイレの更新を進めてまいります。	B
42	高齢なペンギンへの足腰のリハビリなどや動物が適切な治療を受けられるような医療設備の充実をしてほしい。	動物病院等医療施設につきましては、安全で効率的な管理動線の整備や傷病動物や感染症への対応を適切に行うための動物隔離施設や保護施設の充実等を進めてまいります。	B
43	ドッグランスペースがあったらよい。	ドッグランの設置につきましては、一定のオープンスペースの確保などが必要であることから、周辺施設の状況や利用状況等から設置の可能性について今後検討してまいります。	C
44	公園の坂上に、自動車の一時的な乗降場を設置してほしい。	身障者用の駐車場を先行してパークセンター裏に整備しておりますが、運用については今後、検討してまいります。	C
45	公園内に存在する墓地を、静謐な場所として、散策コースに自然に組み込むことを提案します。	墓地につきましては、民有地となりますので、今回の再整備計画の対象範囲外となります。	E
46	夢見ヶ崎動物公園は、平らな一帯で唯一の起伏に富んだ公園であり、地形を活かした遊び場の提供に期待したい。斜面を利用したアスレチック等、子どもが身体を使って遊べる遊具や、子ども夢パークのように火や工具など注意が必要な道具を使える機会を与える場を希望する。	遊具につきましては、いただいた御意見を参考に、安全性や利用のしやすさの観点から、適切な種類・配置を検討するなど、誰もが安全に、安心して利用できる公園環境の整備を検討してまいります。	C
47	子どもが「またあそこで遊びたい！」と思えるような魅力的な遊具があると良い。遊具の選定にあたっては、子育て中の市職員や地域の小学校・保育園で投票を行うなどを行い選んでもらいたい。		C
48	大きな声が常時聞こえたりすると、動物たちへのストレスが心配なので、遊具などは動物たちの居住エリアからは、少し距離を置いた方が良いと思う。	遊具につきましては西側エリアから撤去し、動物園エリアから少し離れた芝生広場側に新設を予定しております。	B
49	動物モチーフのベンチなどは、対コスト効果は高くないため、検討をやめ、飼育場やバックヤードの整備にあてるべきだ。	来園者にワクワク感を感じさせるような「しかけ」を検討するとともに、獣舎やバックヤードについてはアニマルウェルフェアに配慮した、職員の働きやすさや安全を考慮した整備を進めてまいります。	C
50	観光地によくある、ここから何が見える、という看板があるとよい。	園内の案内板等につきましては、加瀬山の歴史や自然などの資源を有	C

51	カイズカイブキのトンネルに説明書き加えを、名所化した方が良い。	効に活用し、幅広い世代にわかりやすい、ワクワク感を演出できるようなサインや展示などを検討してまいります。	C
52	パークセンターに遺跡の解説と出土品、できれば前方後円墳があった頃の模型などを展示してほしい。		C
53	高齢者にも分かりやすい案内表示がほしい。		C
54	入口のトーテムポールと看板が古さを感じさせてしまっているため、スタイリッシュな看板などに変更すべき。	いただいた御意見を参考に、ワクワク感を演出できるようなサインや展示などを検討してまいります。	C
55	公園内は石が多いので公園内整備で発生した木を破砕し、通路に敷き詰めることで、石を隠し転んでも怪我をしにくい構造にすることが期待できる。	いただいた御意見を参考に、園路のバリアフリー化や来園者の方々の安全確保等に配慮した施設となるよう努めてまいります。	C
56	展示スペースだけでなくバックヤードの環境も考える必要がある。	感染症への対応を適切に行うための動物隔離施設や保護施設の充実など動物の安全はもとより、職員の働きやすさや安全を考慮した整備を行います。	B
57	ヨガやラジオ体操など出来るスペースやイベントがほしい。	いただいた御意見を参考に、民間パートナーと連携したプログラムやイベントの可能性について検討してまいります。	D
58	公園内の電線地中化および、見晴らしの良い広場整備を提案する。子どもたちが凧揚げを楽しめる開放的な空間にしてほしい。	いただいた御意見については、再整備計画の趣旨や関係法令に沿って、施設整備や運営手法の検討・改善に活かしてまいります。	D
59	動物エリアから十分な距離を確保した上で、手持ち花火および家庭用打ち上げ花火に対応した専用エリアを設ける。エリアは夏季の夜間利用を促進し、公園全体の魅力向上にも寄与する。		D
60	高台で空が広い夢見ヶ崎動物公園の地形特性を活かし、ユニバーサルな空間設計を重視した天体観測ができる環境整備を提案する。流星群・日食などの天文イベントに合わせた活用も期待できます。		D
61	高台の立地を活かした展望温浴施設の誘致と宿泊機能の整備を提案する。日常利用だけでなく、宿泊機能を持たせることで、大規模災害時の避難所・休養拠点としての防災機能も兼ねることができる。	展望温浴施設や宿泊施設の誘致については難しいと考えておりますが、民間パートナーと連携したプログラムやイベント等について、検討してまいります。	D
62	夜景とプライバシーを売りにした数組限定の高級グランピング施設の整備を提案する。持続可能な公園運営モデルの構築につながる。	グランピング施設の整備につきましては、再整備計画の趣旨等を踏まえると、現時点では困難であると考えております。一方、民間パートナーと連携したプログラムやイベント等について、検討してまいります。	D

63	冬場の鳥インフルや防寒対策のために獣舎をビニール等で防除しているのは必要だと思うが、反射で動物がほとんど見えないため改善を希望する。	子どもの目線や車いすなどバリアフリーに配慮した、誰もが見やすい展示を心がけるとともに、展示動物の防犯対策、鳥インフルエンザなどの健康危機管理、地震など自然災害に対する防災対策のために必要な施設を整備してまいります。	B
64	職員の職場環境を充実してあげてほしい。	職員の安全確保を考慮した園路など動線、施設の整備を進めてまいります。	B

（４） 運営・管理に関すること（２４件）

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
1	現在、公園へのアクセスは急勾配の坂道に限られており、高齢者・障害のある方・小さな子ども連れにとって大きな負担となっていることから、アクセスの選択肢を増やすために武蔵小杉駅や新川崎駅などから夢見ヶ崎動物公園までのバス路線の新設をしてほしい。（同趣旨意見３件）	いただいた御意見につきましては、関係機関に情報共有を行ってまいります。	E
2	動物園エリアにペットを入れると、感染症やストレスとなるため、過度に近づけないよう注意喚起してほしい、また、子供の大声やエサやりなどの注意事項についてより啓発してほしい。（同趣旨意見　４件）	いただいた御意見を参考に、夢見ヶ崎動物公園での注意事項の啓発等を検討してまいります。	C
3	モノレールやゴンドラ型交通アクセスを導入してほしい。（同趣旨意見２件）	夢見ヶ崎動物公園は高台に位置していることから、徒歩での来園には一定の負担が伴うほか駐車場の狭さや、バス停からの距離など、アクセス面での課題があります。これらの課題に対応するため、公園までのルート案内の充実や、駐輪場の拡充、周辺施設との連携による駐車場台数の確保により、アクセス環境の向上に継続的に取り組みます。	E
4	道に迷う来園者もいることから、より分かりやすい案内表示やワクワク感につながる演出など夢見ヶ崎動物公園にアクセスを改善して、より魅力アップしてほしい。（同趣旨意見８件）	夢見ヶ崎動物公園へのアクセスにつきましては、ホームページやアクセス動画による丁寧な交通案内とともに、新川崎駅から動物公園へ向かう跨線橋にイラストを掲示するなど、工夫を進めてまいりました。今後は、いただいた御意見を参考に、動物公園へのより分かりやすい案内や動物公園に向かうワクワク感を感じていただけるような「しかけ」などについて検討してまいります。	C

5	立地場所が駅から少し離れた丘の上にあることもあり、あまり認知されていない。最寄り駅から直行バスを出すのは難しいと理解するが、新川崎駅からの案内標識や歩道の整備も見直してほしい。特に車いすや視覚・聴覚障がい者に対するバリアフリー化は望まれる。	夢見ヶ崎動物公園は高台に位置していることから、徒歩での来園には一定の負担が伴うほか駐車場の狭さや、バス停からの距離など、アクセス面での課題があります。これらの課題に対応するため、公園までのルート案内の充実や、駐輪場の拡充、周辺施設との連携による駐車場台数の確保により、アクセス環境の向上に継続的に取り組むとともに、動物公園に向かうワクワク感を感じていただけるような「しかけ」などについて検討してまいります。また、動物公園までの歩道等のバリアフリー化等につきましては、関係機関と情報共有させていただきます。	E
6	本事業及び新川崎創造の森更新の効果を大きく高めるために新川崎駅から、公園正門までの距離がネックとなるため、これを機に新川崎駅南口駅舎の新設を行ってほしい。	いただいた御意見につきましては、関係機関に情報共有を行ってまいります。	E
7	坂の上にある動物公園へのアクセス改善のため、平時のコミュニティバスの展開に加え、イベント時には籠や人力車を用意して観光客を誘致してほしい。	いただいた御意見につきましては、関係機関に情報共有を行うと共に、さまざまな方に来ていただけるよう、参考とさせていただきます。	E
8	近くで美味しいものもあったり、他にも行くスポットがあるとさらによい。 川崎駅からのバスの所要時間や、鹿島田駅、新川崎駅からの徒歩での所要時間の案内があるとよい。	いただいた御意見につきましては、関係機関に情報共有を行ってまいります。	E
9	動物園エリアにバギーが置かれていて通行のじゃまになることもあるため、駐輪場エリア等にバギー置き場を作っていただきたい。	再整備において、駐輪場東スペースの拡充について検討していまいります。	B
10	慰霊塔前は簡単なサッカーや野球等を見かけるが、下の駐車場に被害が出ないか心配なため、隔てるものがあるとよい。	いただいた御意見を参考に、夢見ヶ崎動物公園での注意事項の啓発等検討してまいります。	C
11	距離が長くともベビーカーなどでも上がれる勾配のゆるい道を作ってほしい。	夢見ヶ崎動物公園は高台に位置していることから、徒歩での来園には一定の負担が伴うほか駐車場の狭さや、バス停からの距離など、アクセス面での課題があります。これらの課題に対応するため、公園までのルート案内の充実や、駐輪場の拡充、周辺施設との連携による駐車場台数の確保により、アクセス環境の向上に継続的に取り組みます。	C

（５） 財源確保・多様な主体との連携に関すること（７８件）

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
1	カフェなどの飲食店やショップがほしい。（同趣旨意見８件）	来園者アンケートにおいて、飲食店等の売店設置について多くの御要望があることは認識しておりますが、カフェ等の常設飲食事業者の導入については、現時点では困難であると考えております。今後も周辺商店街等民間パートナーと連携し、利用者ニーズに対応できるよう努めてまいります。	D
2	クラウドファンディングである程度の効果が出たため、パークセンターに募金箱を設置したらよい。（同趣旨意見６件）	募金箱の設置など「寄附の拡充」など持続可能な管理運営のための財源の確保について、効果的な寄附募集の手法などの検討を進めてまいります。	B
3	入園料無料がよい（同趣旨意見２件）	公園を閉鎖管理することが難しいことから、入園料は無料で運営してまいります。	B
4	入園料をとった方がよい。（同趣旨意見５件）	有料化につきましては、公園を閉鎖管理することが難しいことから、入園料は無料で運営してまいりますが、一部、民間パートナーとの協働による、駐車場の有料化等、財源の確保に向けて検討を進めてまいります。	D
5	駐車場の有料化には賛成である。（同趣旨意見５件）	駐車場につきましては、周辺施設との連携も含めてスペースの確保を検討するとともに、民間パートナーとの協働による有料化等、持続可能な運営に向けた方策を検討してまいります。	B
6	駐車場の有料化には賛成だが、スムーズな誘導対策をしてほしい。	駐車場につきましては、周辺施設との連携も含めてスペースの確保を検討するとともに、民間パートナーとの協働による有料化等、持続可能な運営に向けた方策を検討するとともに、運用方法についても合わせて検討してまいります。	C
7	駐車場の有料化には賛成だが、一律ではなく平日は無料、土日祝のみ有料化に設定することが望ましい。		C
8	駐車場スペースを確保してほしい。（同趣旨意見２件）	駐車場につきましては、周辺施設との連携も含めてスペースの確保を検討するとともに、民間パートナーとの協働による有料化等、持続可能な運営に向けた方策を検討してまいります。	B

9	駐車場整備は必要なく、身障者のための駐車場として予約制にしても良いのではないか。	駐車場につきましては、周辺施設との連携も含めてスペースの確保を検討するとともに、民間パートナーとの協働による有料化等、持続可能な運営に向けた方策を検討してまいります。	D
10	駐車場自体もアスファルト舗装ではなく環境負荷が少ないものにするべきである。	駐車場につきましては、周辺施設との連携も含めてスペースの確保を検討するとともに、民間パートナーとの協働による有料化等、持続可能な運営に向け、いただいた御意見を参考に検討してまいります。	C
11	夢見グッズを作って販売してほしい。（同趣旨意見１４件）	グッズ販売など包括的な歳入確保につながる企画について、豊富なノウハウやアイディアを有する民間パートナーと連携して検討を進めてまいります。	B
12	地域への波及イメージについて（取組のアイデア） ・持続可能な活動の実践 ・毎年春、秋、夢見ヶ崎動物公園内において、動物園まつりに参加協力（イベント） ・「ゆめみ車マルシェであう　つながる　ひろがる「夢見ヶ崎で素敵な物や人との出会い、オリジナルグッズ販売（動物） ・太田道灌公観光資源　NHK 大河ドラマ放映実現の為の署名活動（2025（R7）.11　31 万 7000 筆）	いただいた御意見を参考にグッズ販売など包括的な歳入確保につながる企画について検討してまいります。	C
13	本編 11.運営手法の部分において、PPP プラットフォーム意見交換会での意見を引用しているが、ホームページに公開している意見交換会の結果の表現と異なっているため、修正が必要であると考える。	今年度、PPP プラットフォーム意見交換会参加事業者に御意見の再確認等行いましたので、その旨も記載するよう修正いたします。	A
14	「動物とのふれあいプログラムの課題」として ・いきなり指定管理者制度に移行すると事故・クレーム・混乱の恐れがある ・「段階的な参入」が安全かつ望ましい を挙げているが、民間活力の導入イコールふれあいプログラムの実施、と読めてしまうので、夢見ヶ崎動物公園らしい体験プログラムを民間事業者との協働で実施していくのであれば、上の 2 点の項目は、別の見出しを付けた方が良い。	御指摘いただきました御意見を参考に修正いたします。	A

15	駅前のA4サイズの広告は、地域の人にとっては情報が多く楽しいものの、初めて来る人にとっては少しチープに感じてしまうため、大きな広告や看板を一つ設置し、地域の情報はQRやチラシ等でカバーする方が見た目は良いのではないか。	広報・啓発手法につきましては、いただいた御意見を参考に、知名度や注目度向上や来園者の満足度アップに向けて、民間のノウハウやアイディアなどを取り入れつつ効果的に実施できるよう検討してまいります。	C
16	夢見ヶ崎動物公園のホームページがないため、ガイドブック的なホームページの作成や、YouTubeでの動物の発信があると良い。 年間のイベントスケジュールがわかると良い。		C
17	動物園エリアの所要時間は1時間未満のため、子ども連れへの公園エリアの案内があると良い。		C
18	夢見ヶ崎動物公園では野生動物の救護活動に力を入れていると聞いており、川崎市でこのような場所はとても貴重なため、今後も続けていただくとともにその活動をもっと広く知ってもらえると良い。		C
19	YouTubeによるライブカメラ配信を、導入するとよい。		C
20	毎日ペデストリアンデッキの掲示を楽しみにしている。引き続き頑張っていただけると嬉しい。	広報・啓発手法につきましては、知名度や注目度向上や来園者の満足度アップに向けて、民間のノウハウやアイディアなどを取り入れつつ効果的に実施できるよう検討してまいります。	B
21	寄付やクラウドファンディングを拡充してほしい。使途の見える化をすると良い。サポーター制度に特典があるとよい。（同趣旨意見３件）	いただいた御意見を参考に、今後「寄附の拡充」など持続可能な管理運営のための財源の確保について、効果的な寄附募集の手法などの検討を進めてまいります。	C
22	バックヤードツアーなどを有料で月１実施するなど収益を上げる施策を実施してほしい。		C
23	調理残渣を動物の餌として活用する「食の循環モデル」となるような多世代が毎日利用できる低価格飲食エリアの設置をしてほしい。	飲食につきましては、いただいた御意見を参考に、キッチンカーの出店頻度について今後関係者等と調整・検討してまいります。	C
24	夢見ヶ崎のレッサーパンダたちもキャラクター化して、南武線とのコラボなどで盛り上げてほしい。	広報・啓発手法につきましては、いただいた御意見を参考に、知名度や注目度向上や来園者の満足度アップに向けて、民間のノウハウやアイディアなどを取り入れつつ効果的に実施できるよう検討してまいります。	C
25	パークセンターで上映されている映像について、学びの為のいくつかのテーマを設定して放映してほしい。		C

26	これまで地域のボランティア活動に支えられてきた公園であるため、再整備後も市民参加の取り組みが継続できる運営を望む。	多様な主体とそれぞれの資源・得意分野を夢見ヶ崎動物公園で発揮していただき、良い効果が地域に波及していくことを目指して再整備を進めてまいります。	B
27	老朽化対策を行いながら縮小せずに、楽しく子供の教育に資する場として継続してもらいたい。 駐車場の有料化や有料餌やり、有料のふれあいコーナー（土日）、キッチンカーの所場代などで収益化を図りながら継続してもらいたい。	駐車場の有料化など包括的な歳入確保につながる企画について、豊富なノウハウやアイディアを有する民間パートナーと連携して検討を進めてまいります。	B
28	せっかく稼げる好立地の場所に維持管理費の高い動物園を無料のまま存続させるのであれば、市の財政面を少しでも改善できるよう、市外住民の呼び込めるような魅力向上の施設整備・運営計画も検討してはどうか。特に、研究機関との連携に重視して、実証実験フィールドとしての活用や、企業に稼がせることに重点を置いても良い。	いただいた御意見を参考に、今後「寄附の拡充」など持続可能な管理運営のための財源の確保について、効果的な寄附募集の手法などの検討を進めてまいります。	C
29	野生動物の保護リハビリについては、どの動物園、一般動物病院も含めた保護施設とも手探りで行っている様子なので、全国の傷病鳥獣保護に係わる人たちと、夢見の獣医師やリハビリテーターが情報発信・共有ができたら、夢見の存在価値がより高まると思う。	広報・啓発手法につきましては、いただいた御意見を参考に、知名度や注目度向上や来園者の満足度アップに向けて、民間のノウハウやアイディアなどを取り入れつつ効果的に実施できるよう検討してまいります。	C
30	加瀬山全体の自然環境を研究できるよう、大学や企業などとの提携を強化し、最新の研究を行政がサポートしていくことにより、継続発展していけるのではないか。鳥獣への医療技術や繁殖技術に対する海外の新しい知見も多く取り入れ、他国とも協力して生物多様性を推し進めていけるよう、海外の先進的な施設や研究機関と積極的に国際交流もしていくことが必要だと考える。一過性ではなく、川崎市民として将来世界に誇れる施設にしてほしい。	再整備にあたっては、協賛や技術提供、実験的な取組を通じて、地域とのつながりを深め、広げながら市民・企業・大学と共に新しい夢見ヶ崎動物公園を育ててまいります。	B
32	こども遠足プログラムの作成と実施をしてほしい。	広報・啓発手法につきましては、いただいた御意見を参考に、知名度や注目度向上や来園者の満足度アップに向けて、民間のノウハウやアイディアなどを取り入れつつ効果的に実施できるよう検討してまいります。	C

33	植物、昆虫の解説など高校生や大学生によるボランティアが活動の場を求めている場合もあるので、学校や他団体によるイベントやプログラムの実施があると良い。	多様な主体とそれぞれの資源・得意分野を夢見ヶ崎動物公園で発揮していただき、良い効果が地域に波及していくことを目指して再整備を進めてまいります。	C
34	レッサー舎のところ募金箱が目立たないため、複数のところに募金箱を置いても良い。	募金箱の設置など「寄附の拡充」など持続可能な管理運営のための財源の確保について、効果的な寄附募集の手法などの検討を進めてまいります。	B
35	SNS の活用を積極的に行い、収入を得るモデルを作っている動物園もある。	いただいた御意見を参考に「寄附の拡充」など持続可能な管理運営のための財源の確保について、効果的な寄附募集の手法などの検討を進めてまいります。	C
36	温暖化や都市開発など自身の生活が動物や自然環境に悪影響を与えているということを理解するだけでなく、その改善に向けた行動を促すところまでの教育機能を担っていただきたい。「地域とのつながり例」で大学や企業等との連携とあるが、環境教育や取組についての連携を強化していただきたい。また、動物園・水族館等で、近隣のごみ拾いイベントをやっているところがあるが、そのようなイベントを動物園で実施したり地域の人が実施するのを促したりしていただきたい。	いただいた御意見を参考に、多様な主体とそれぞれの資源・得意分野を夢見ヶ崎動物公園で発揮していただき、良い効果が地域に波及していくことを目指して再整備を進めてまいります。	C
37	民間パートナー、リピーター増加による収入源の確保は必要不可欠である。	いただいた御意見を参考に、グッズ販売など包括的な歳入確保につながる企画について、豊富なノウハウやアイディアを有する民間パートナーと連携して検討を進めてまいります。	C
38	愛護センターについて、業務内容の情報発信や飼い主募集対象となっている犬・猫の情報提供など、業務の一部を動物園敷地内で行うことを検討いただきたい。	多様な主体とそれぞれの資源・得意分野を夢見ヶ崎動物公園で発揮していただき、良い効果が地域に波及していくことを目指して再整備を進めてまいります。	C
39	地域として心理的安全性があり、自分を自由に表現できる場所として不登校の子どもたちが活躍できる場を作ってほしい。そうすることで一人暮らしの高齢者の居場所としても機能し、「市民の、市民による、市民のための」地域包括ケアの拠点にもなり得ると思う。		C

40	行政からの一方的なサービス提供の場から脱却し、市民が力を発揮できる仕組みを整え、 中高生や高齢者など多世代が創造性を発揮できて、自然に交流できる公園になるとよい。		C
41	売店は不要である。	来園者アンケートにおいて、飲食店の売店設置について多くの要望があることから、今後も周辺商店街等民間パートナーと連携し、利用者ニーズに対応できるよう努めてまいります。	C
42	バードショー、えさ作り体感、職場見学などを行うにあたっては、職員の負担が増えないように検討してください。	いただいた御意見を参考に、「いのちを感じる」プログラムにつきましては、多様な主体と連携して、効率的、効果的に実施できるよう検討してまいります。	C

（６）コレクションプランに関すること（１０件）

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
1	動物園でカピバラを飼ってほしい。できたら触れ合いもできたら良い。	コレクションプランについては、種の保存や環境教育などの動物園の役割やアニマルウェルフェアの視点や魅力増進の視点などを踏まえ今後も検討してまいります。	C
2	タヌキのゲンマイちゃんが人気があるが、フンボルトペンギンほどでなくても小山位のオープンスペースを区切って、タヌキ、アナグマ、ハクビシンを複数個体見れるようにできないか。		C
3	リスが亡くなってしまって、子どもが悲しんでいるが、もうリスが来ることは無いのか。また、うさぎなど子供にとって身近な動物の展示や餌やりが出来るととても嬉しい。		C
4	日本の動物が揃っていて、猿も充実しているのだが、海外からきた人が日本の猿がいないのかと言っていたので、ニホンザルを１ヵ所展示してほしい。		C
5	日本にいる動物に重点を置いていただきたい。海外の珍しい動物ではなく、日本のかわいい動物がたくさんいると発信していただきたい。		C
6	可能であればキリンなど目玉となるような動物もいると良い。狐や狸と触れ合えるなど特色があると付加価値も高まると思う。川崎市内においても知名度が低いため、広く認知されるような企画が必要と思う。		C
7	タヌキを増やしてほしい。		C
8	日本でここにしかいない、という動物を入れることができれば、発信の仕方によっては全国的な注目を集めることも可能ではないか。 希少動物の繁殖や野生動物保護に貢献していただくことも大事な役割であると思う。		C
9	地球温暖化の影響で年々気候が厳しくなり、屋外で飼育する動物の扱いが困難になることが予想される。日本の気候に合わない動物はなるべく減らし、タヌキのような身近な動物を増やしてはどうか。動物との触れ合いをめざすなら、動物愛護センターかわさきで保護されている犬やウサギを何匹かこちらの動物園で（譲渡を目的とせず）飼育するのも悪くないと思う。		C

10	コレクションプランについて、「新たな種の導入」は、アニマルウェルフェアに基づいた飼育面積や飼育作業負荷等から慎重に検討いただきたい。また、繁殖についても、種の保存の重要性は尊重しつつも、繁殖に伴う移動や隔離などの個体に与えるストレスも重視し、JAZA 生物多様性委員会のブリーディングローンについては慎重に検討いただきたい。		C